

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名 : シルバーNファースト10kg
製品コード : EP376
会社名 : アサダ株式会社
住所 : 愛知県犬山市大字羽黒新田字一本松1の1
担当部門 : 研究開発部
電話番号 : 0568-67-3773
緊急連絡電話番号 : 0568-67-3773
FAX番号 : 0568-67-3785
メールアドレス : sales@asada.co.jp
推奨用途及び使用上の制限 : アルミフィン・フィルター・空気清浄機の集塵板の油污れ
ヤニ等の洗浄

2. 危険有害性の要約

GHS分類

金属腐食性物質	区分1
急性毒性（経口）	区分4
皮膚腐食性／刺激性	区分1（1A及び1B）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分2

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ
飲み込むと有害
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
呼吸器系の障害のおそれ

3. 組成、成分情報

化学物質 ・混合物の区別
・混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
水酸化ナトリウム	5未満	1310-73-2	(1)-410
水酸化カリウム	5未満	1310-58-3	(1)-369
アルカリビルダー	1~10	非公開	非公開
キレート剤	1~10	非公開	非公開
界面活性剤 (陰イオン系)	1未満	非公開	非公開
消臭剤	微量	非公開	非公開
銀イオン	微量	非公開	非公開
色素	微量	非公開	非公開
水	水	7732-18-5	-

P R T R 法報告物質

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

労働安全衛生法

通知物質	： 法第57条の2、施行令18条の2別表第9	名称等を通知すべき有害物質
制令番号	物質名	含有量
316	水酸化カリウム	5%未満
319	水酸化ナトリウム	5%未満

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

消防法

非該当 不燃物である。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・強アルカリ性の製品なので、石鹼を用いず微温湯を流しながら皮膚の刺激や、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続ける。1時間以上を要することがある。
- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。
- ・医師の指示なしでは油類または軟膏を用いてはならない。
- ・すぐには痛みがなく視力に影響がなくても障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・腐食性の製品なので、吐き出させるとかえって危険が増す。可能であれば希釈のために水を飲ませる。意識の無い場合は何も与えないこと。直ちに医療措置を受ける手配をする。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・医師に製品ラベルもしくは、SDSをみせる事。

最も重要な兆候及び症状

- ・知見なし

応急措置をする者の保護

- ・知見なし

医師に対する特別注意事項

- ・知見なし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・初期火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
- ・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
- ・この製品自体は、燃焼しない。

使ってはならない消火剤

- ・知見なし

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- ・作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・本製品は強アルカリなので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。必要があればさらに希塩酸、希硫酸等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または喚起のよい場所で行う。
- ・取扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・他の容器に移し替えしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管

適切な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

- ・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと。
- ・酸と一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・軟鉄、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「－」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
水酸化ナトリウム	－	TLV-STEL 2mg/m ³
水酸化カリウム	－	TLV-STEL 2mg/m ³
アルカリビルダー	－	－
キレート剤	－	－
界面活性剤（陰イオン系）	－	－
消臭剤	－	－
銀イオン	－	－
色素	－	－

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。
- ・必要に応じて保護衣、保護前掛け等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡（普通眼鏡型）、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	:	黄色透明液体
臭い	:	原料臭
pH	:	13以上
融点/凝固点	:	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	:	データなし
引火点	:	なし
自然発火温度(発火点)	:	データなし
燃焼性	:	データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	:	データなし
蒸気圧	:	データなし

蒸気密度	:	データなし
蒸発速度	:	データなし
比重	:	1.22
溶解性	:	水に可溶
オクタノール/水分配係数	:	データなし
分解温度	:	データなし
その他のデータ	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の手扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・特になし

避けるべき条件

- ・高温への暴露、高酸化剤、アルカリ金属、金属粉末との接触

混触危険性物質

- ・酸性物質（アルカリ性物質のため、酸性物質との接触を避けること。）

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

- ・水酸化ナトリウム

《急性毒性》

経口：ウサギのLD50値325mg/kg (SIDS, 2002)のデータのみで、げっ歯類のデータがないため、指針に基づき分類できないとした。

《皮膚腐食性／刺激性》

ヒト皮膚に対して0.5%以上でirritating(SIDS, 2002)、severe corrosion (DFGOT vol.12, 1999)を引き起こすとの記述及びブタ皮膚に対して8%以上でcorrosion(SIDS, 2002)、ウサギ皮膚に対して5%、4時間でsevere necrosis (ACGIH, 7th, 2001; PATTY, 5th, 2001)を引き起こすとの記述から区分1とした。

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

ヒト眼に対してsevere, serious hazardを引き起こすとの記述 (ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)及びウサギ眼に対して1.2%以上でcorrosiveを引き起こすとの記述(SIDS, 2002)から区分1とした。

《標的臓器／全身毒性（単回暴露）》

ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述

(SIDS, 2002; ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)から
区分1 (呼吸器系) とした。

・水酸化カリウム

《急性毒性》

経口: priority 1 に記載されているラット、LD50値の統計計算値が284mg/kg
であったため区分3に分類した。

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギによる試験で腐食性(SIDS (2001))、ヒトに対して腐食性 (SIDS (2001))の
記載があり、国連分類クラス8Ⅱに分類されていることより区分1Bに分類した。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ヒトに対して不可逆な障害があり (SIDS (2001))、ウサギの試験で腐食性(SIDS (2001))
の記載あり、皮膚腐食性/刺激性のGHS 分類が区分1Bであることより区分1に分類した。

《標的臓器/全身毒性 (単回暴露) 》

粉塵又はミストを吸入暴露すると鼻、気管気管支に熱傷等の障害を起し、
肺水腫にまで至る(SIDS(2001)), (ACGIH (2001)), (PATTY (5th, 2001))の記載により
区分1(呼吸器系)に分類した。

《吸引性呼吸器有害性》

吸引により肺炎で死に至る (ACGIH (2001))の記載より区分1に分類した。

・アルカリビルダー

《急性毒性》

経口: LD50 1280mg/kg

経皮: LD50 >2000 mg/kg

吸入: LD50 4.96 mg/L

《皮膚腐食性/刺激性》

強アルカリで腐食性が強い。

類似成分において、ウサギを用いた4時間適用による複数の皮膚刺激性試験

(OECD-Guideline 404 ;SIDS (access on 12 2008))において、皮膚の壊死 (necrosis)
が認められ、腐食性 (corrosive) であるとの結果が得られている。

《眼に対する重篤な損傷性/刺激性》

類似成分において、ウサギ眼における試験結果が腐食性 (corrosive) である。

《標的臓器/全身毒性 (単回暴露) 》

類似成分において、ラットを用いた経口投与試験 (用量: 538-2000mg/kg bw (males),
910-2600 mg/kgbw(females)) において嗜眠状態、呼吸数増加、散瞳、痙攣がみられ
(SIDS (access on 12 2008))、ラットを用いた経口投与試験 (用量: 1750mg/kg bw)
において、無関心、よろめき歩行、呼吸困難が見られている(SIDS (access on 12 2008))。
また、マウスを用いた経口投与試験 (500-1920.8 mg/kg (males), 500-1372mg/kg
(females)) (SIDS (access on 12 2008))において嗜眠状態が見られている。
区分2のガイダンス値の用量にて嗜眠状態、チアノーゼ、散瞳、呼吸麻痺、後肢の麻痺など
の神経症状が認められていることから、区分2(神経系)とした。

1.2. 環境影響情報

・水酸化ナトリウム

《水生環境有害性（急性）》

甲殻類（ネコゼミジンコ属）の48時間LC50=40.4mg/L（SIDS、2004）から、区分3とした。

オゾン層への有害性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・廃棄する際は、中身を使いきってから、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス8 腐食性物質

国連番号

3266 腐食性液体（アルカリ性、無機物）、n. o. s.

包装等級

II

海洋汚染物質

非該当

国内規制：

容器イエローラベル

154 腐食性液体（アルカリ性、無機物）、n. o. s.

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実に行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

1 5. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法：

（ ）内は、指定数量

内容量 10kg （消防法上の非危険物） 10kg

不燃物である

毒物及び劇物取締法（毒劇物取締法）：

詳細は 3. 組成、成分情報を参照

非該当 ： 規定量以下のため非該当。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法：

表示対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則) :

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物) :

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法 (PRTR法) :

非該当 閾値以下 (詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16. その他の情報(参考文献等)

JIS Z 7253 : 2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ)

15107の化学製品 (化学工業日報社)

JACA (日本オートケミカル工業会) 編集: 化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

産業中毒便覧 (医歯薬出版株式会社)

化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂7版

事業者向けGHS分類ガイダンス第2版(平成23年3月) 経済産業省

※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。